

山椒は小粒でも...



Vol.78

32才のころの話



まちづくり団体（JCC）に所属していたころ、「らしさづくりに委員会」という、奇妙な名称だけ何をするかがよくわかる委員会の委員長を命ぜられました。その1年前の活動で北海道から鹿児島までの11ヶ所を現地調査したこともあり、まちづくりにかかわることができる喜びと初委員長という重責が交錯する1990年でした。

ために、鳥羽のまちを模型にして提言しようということになりました。

提言というと、報告書にして冊子にまとめるとというのが当たり前の時代でしたが、私たちは提言を子どもを含む全ての世代に見てもらいたいと思いい、表現方法を工夫しました。その内容を、ネタにいろいろな意見が飛び交うようにする

まずは地形づくりのため2Mの等高線に沿って2ミリのボードを切り抜き、それを積み重ねます。標高約160Mの樋ノ山は80枚のボードを積み上げました。そこには紙粘土を塗り込み、その上にはジオラマの綿状の樹木を載せ、まち中にはブロック状の家並を配しました。もちろん、配置を考えるだけではありません。住んでいるかたには申し訳なく思いつく山を切り土したり、お堀を復活させたりもしたので、そのメス（のこぎり）を入れるのは心底責任を感じたのを今でも憶えています。



模型のサイズは縦1.85m×横1.3m
完成後に部屋から出ないことがわかり、2階の窓から下へ降ろしました



史実にあったようにお堀（蓮池）を復活させました

そして完成後は当時の水谷市長に提言し、そのまま寄贈。

現在の西庁舎2階ロビーに展示されました。

提言では、当時マリンタウン計画が既に進んでいたため佐田浜地区には触れていません。近鉄志摩線が複線化されることで開かずの踏切となり、より海側と市街地側の分断化が増すのではないかとという懸念がある時でした。模型ではその分断を逆手にとり、海側の新しいまちと市街地側の歴史的なまちの差別化を際立たせ、その二極をタイムトンネルのような大陸橋でつないでほしいというコンセプトでした。必然的に周遊する動線となるので、今で言うところのウォーカーブルなまちづくりを提言していました。

ほかに、伊勢神宮と宇治浦田の駐車場の間に位置するおはらい町が賑わいの絶妙な位置関係にあります。水族館や真珠島の吸引力をもつてすれば、駐車場は少し離れたところにある方が動線が長くなつていいのでは、などと生意気なこと提言しています。

この提言が34年前。その取り組みを、立場を変えて今年「まちづくり再生元年」としてスタートさせました。市民のみなさんの声をお聞きしますので、よろしくお願ひします。

魔法の言葉



Vol.230

教育委員会生涯学習課

☎ 1268

㊦ おはようございます

㊧ ありがとうございます

㊨ すみません

オアシス運動の標語です。学校や公園などで見かけたり、耳にしたことがあるのではないのでしょうか。オアシス運動は昭和30年ごろに始まり、今に至るまであいさつの大切さを伝えていきます。

ほかに、いろいろなあいさつがあります。「行ってきます」「お帰りなさい」「ようこそ」など。漢字で表すと「挨拶」。

「挨拶には「おす・ひらく」「挨拶」には「せまる・近寄る」という意味があります。「心をひらいて、つながる」と解釈することもできるのではないのでしょうか。相手の存在を認め、受け入れる行為とも言えます。

あいさつには良い点がたくさんあります。大きな声ですると気持ちがいい・笑顔になる機会が増える・人間関係が良くなる・会話が始まる・思い立ったらすぐ始められる。

あいさつのポイントとして、自分から進んで・目を見て・できるだけ笑顔でなどがよく言われます。しかし、慣れないうちは勇気がいるかもしれないし、思ってもできないことでもあります。会釈や頭を下げるという動作でも気持ちは伝わるのではないのでしょうか。もし、相手の反応がなくても声をかけ続けることが大切です。心の中に種がまかれ、いつか芽が出ることでしょ。

「こんにちはと言われてうれしかった。次は自分から言いたい」「勇気を出してあいさつしたら、優しい返事が返ってきた」「ただいまという声に元気をもらった」などの声を聞いたことがあります。

あいさつは、心をつなぐ・人と人を結び魔法の言葉なのです。いろいろな人がいるいろいろなところであいさつを交わし、人権文化の花を咲かせてほしいものです。